

# 「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和4年2月4日（金） NO30 文責 木下 文秋

## 義を見てせざるは勇なきなり

「義を見てせざるは勇なきなり」とは、1月30日の宮日新聞「くろしお」の欄に書かれていた言葉です。「人として当然行うべき正義と知りながら実行しないのは、勇気がないからである」という意味だそうです。この言葉は、栃木県の電車で喫煙をしていた男性が「やめてもらえませんか？」と注意した男子高校生を殴るなどしてけがを負わせたという記事によるものです。電車で喫煙をすること自体に驚きですが、注意をされたことに逆ギレして暴力を振るうなど言語道断です。併せて、電車内の乗客は、それを見ていて何もしなかったのかという批判的なニュアンスのコメントもあるそうです。その高校生は正座をさせられて暴力を振るわれたとのことですから、周りの人は黙って見ていたということになります。もし、自分がその電車にいたらどうしていただろうかと考えます。最近、わがままな逆恨みによる犯行で命を落とす事件や「誰でもいいから殺して自分も死にたかった」など全く意味不明な理屈も珍しくないことを考えると、堂々と正義を貫く自信はなさそうに思います。皆さんはどうでしょうか。例えばクラス内でいじめやけんかがあったとき「見て見ぬふり」をするか。それとも「制止」するのか。もちろん後者が望ましいことだと思いますが、そう分かっている、できるかどうかは不透明です。自分が想像していないことが目の前で起きて、その対応を迫られた時、人はどういう行動をとるのでしょうか。残念ですが私は「知らないふりをする」「その場から立ち去る」など正義と向き合う行動をとる絶対的な自信がありません。改めて正義を貫くことの難しさを痛感します。学校にも正義があります。『ダメなことはダメ。やるべき時間にやるべきことをきちんとやる。頑張った人が損をしない』といった「正義が通る学校」でなければならぬということです。校内に不思議なことがあります。1年生の教室から3階に上がる階段は閉鎖されています。2階の多目的トイレも閉鎖されています。私がこの学校に赴任した時からすでにそうでした。どうして使えないのでしょうか。是非この2カ所は解放したいと考えています。そのためには、皆さんの正義が必要です。正義を貫くには勇気が要りますが、時間がかかってもそこを目指して頑張っていくことで「正義が通る」学校を目指したいと考えています。